

第23回RAG会合の結果概要

1. RAG会合の概要

日程・場所: 平成28年5月10日(火)～13日(金)(4日間)、スイス・ジュネーブで開催。

目的: WRC、研究委員会(SG)などのITU-R活動の運営方針について検討し、無線通信局長に助言。

参加者: 31カ国、無線通信局(BR)等から約100名が参加。日本からは計5名参加。

2. 会合の主な結果

(1) 2019年世界無線総会(RA-19)、世界無線通信会議(WRC-19)に向けた準備

① WRC-19議題10(次回、次々回のWRC議題)にかかる寄書のWRCへの入力期限の早期化

WRCへの寄書の入力期限はWRCの2週間前とされているが、WRC-19議題10にかかる提案は検討に時間を要することから、WRC-19議題10にかかる寄書の入力期限はWRC-19の1ヶ月前とするべき旨中国が提案。

→審議の結果、主管庁は可能な限り早く、望ましくはWRC-19の一ヶ月前までにWRC-19議題10にかかる寄書を入力することを推奨することとなった。

② CPM-2の開催期間の短縮

CPMの開催機関はITU-R決議2-7において1週間～2週間とされているが、参加者の移動日の負担を考慮し、CPM第2回会合の期間は8日間とした上で、開始日を火曜日、最終日を開始日の翌週の木曜日とする旨フランスが提案。

→審議の結果、各主管庁は次回RAGまで本提案について検討し、次回RAGにて再度検討することとなった。

(2) 無線通信規則(RR)の110周年記念

① 無線通信規則(RR) 110周年記念式典の実施

11月3日で110周年を迎える無線通信規則(RR)の記念式典を12月に開催される世界無線通信セミナーに併せて実施する旨BR局長が提案。

→審議の結果、世界から多くの要人の参加が見込まれるセミナーに合わせ記念式典を執り行うことは非常に有益とされた。

② ITU-R歴史情報ウェブページ

ITU-Rの歴史情報を掲載したウェブページを設置すべき旨ロシアが提案。

→審議の結果、本活動はITU-Rのプレゼンスの向上に有益である認識で一致した一方で、予算の制約やBRへの負担は最小限にならなければならない点を確認され、主管庁によるボランティアベースで実施していくこととなった。

2. 会合の主な結果(続き)

(3) ITU-R運用計画案 (2017-2020年)

① 2017-2020年の4ヶ年運用計画

ITU-R及び事務総局の2017-2020年の4ヶ年運用計画が示され、審議。

→審議の結果、ITU-Rの目的とBRの目的を区別すべきとの指摘、エディトリアルな修正等がなされた。

② 持続可能な開発目標(SDGs)

国連で2015年9月に策定された持続可能な開発目標(SDGs)とITU-Rの活動との対応関係について審議された。

→審議の結果、放送分野などによるSDGsへの貢献が加えられると共に、ITU-RによるSDGsに対する貢献については、継続的に整理していくこととなった。

(4) 理事会検討事項

① ITU文書へのアクセスポリシー

現在、ITU理事会の財政及び人的資源に関するWGにて検討されている、ITU文書へのアクセスポリシーにかかり、ITU-Rの研究委員会(SG)の文書の公開範囲について、審議。

→審議の結果、次の二つの意見が示され、RAGのサマリーレコードにノートすることとなった。

- ✓ ワーキングパーティー(WP)やタスクグループ(TG)を含むSGにかかるすべての入出力文書を公開可能とする。
- ✓ WPやTGレベルの文書は十分に議論がなされたものではないため、SGレベルの入出力文書のみ公開可能とする。

(5) BR 情報システム

① 衛星調整ファイリングの電子化プロジェクト

WRC-15にて決議された衛星ネットワークのファイリングの電子化についての計画案が示された。また、電子化に係る検討を促進するため、ラポーターグループの設置をフランスが提案。

→BRによる各種ソフトウェアの開発にかかる取り組みについて歓迎されると共に、ラポーターグループの設置及び議長にバレー氏(フランス)が就任することとなった。

② 無線通信規則(RR)ナビゲーションツール

WRC-15前にRRナビゲーションツールのテストバージョンが無償にて公開された旨及び正式版が2016年に完成する旨報告され、当該ツールを有償とすべきか無償とするべきかについて議論。

→審議の結果、コストリカバリーのため100CHFの使用料を設定するとされたものの、無償とすることは主に開発途上国にとって有益である旨サマリーレコードにノートすることとなった。